

時代の動く時、塾がある

— the KAWAIJUKU Chronicles —

塾は自由な「知」の解放区である

1933

年11月、河合塾は創設者、河合逸治が自宅を開放して48人の生徒を集めた河合英学塾としてスタートした。

以来半世紀余り、河合塾は塾という名称にこだわり、誇りを持ってきた。学校でもなく、予備校でもなく、なぜ塾であるのか——。

その名称には、いかなる力にも束縛されない、自由な「学び舎」でありたいという願いが込められている。そしてまた、生徒に教えるというのではなく、生徒と共に我々も学んでいくという意味が込められている。

真に学びたい者が集い、新しい交流が生まれ、時代を動かす原動力となっていく。

かつて激動の時代にあった無数の私塾たち。たとえば適塾、たとえば松下村塾……。そこは常に人物たちの熱気にあふれた「知」の解放区であった。

河合塾もまた現代にあって、多くの人物たちの交流の場でありたいと考えている。

情報の河合塾、健在

1972

年、河合塾が全国統一模試を実施した最初の年だ。同時にそれは全国の受験生のデータ、受験動向を掌握した年でもあった。その情報の正確さ、分析力は高く評価されており、現在、全国の高校・私塾向けのオンライン進学情報通信「E X C E L」として活かされている。また、河合塾の模擬試験を受ける受験生は年々増加しており、'90年現在で年間のべ250万人を超える受験生が利用している。

全国ネットから世界の河合塾へ

1977

年、それまで名古屋を本拠地としていた河合塾が東京に進出。駒場の東大教養学部の隣接地に校舎を構えた。これを手始めに広島、福岡、大阪と着々と全国にネットワークを広げ、今や日本を代表する民間教育機関となった。さらにそれに留まることなく、国外にもネットワークを拡大。すでに台湾には日本語学校、米国ニュージャージーやロンドンにも事務所開設と、世界の河合塾に向けて前進しつつある。

文化ネットワークの中継点として

1984

年、東京で日仏シンポジウム「日本の心・フランスの心」を開催。この年、河合文化教育研究所も開設される。これ以後、同研究所で各分野の先端テーマに取り組んだ国際シンポジウムを連続開催している。研究所ではこのほかにも0~1才児に対する教育の研究開発など、教育界でも未開のテーマに意欲的に取り組んでいる。また、河合塾美術研究所とともに公開講座を開いており、河合塾を中心とした文化ネットワークと社会人との接点の役割を果たしている。

知の最先端を擊つ

1986

年、河合ブックレット誕生。河合塾の出版事業としては主に学習参考書が知られていたが、一般書への参入はこれが初めてである。同ブックレットは河合文化教育研究所開催の講演会の内容を復元したものだが、数学者の倉田令二朗氏、作家の立松和平氏をはじめとする著名な学者や作家の、ジャンルにとらわれない、知の最先端にアプローチする活字メディアである。

総合教育機関として

1987

年、それまでトライデントカレッジで開講されていた社会人教育が、オープンコースという名前でスタートした。これは広く一般社会人にも学習の機会を与えようというもので、単なる教養講座ではなく、語学、情報処理などのスペシャリストを養成する講座である。もともと進学塾としてスタートした河合塾であったが、理想は0才からシルバーエンターテイメントまでを含めた総合教育機関であり、あらゆる階層の人々の成長に積極的にかかわっていきたいと考えている。

90年代は教育の技術革新の時代

1990

～。これまで教室があり、講師がいて生徒がいればそれだけで授業は成立した。もちろんそれは基本として揺るがない。しかし今や教育方法は多様化しており、あらゆるニューメディアと教育との結合がはかられている。たとえばCAIは数学の式の内容をビジュアル化し、シミュレーションすることにより、生徒の理解力を飛躍的に増した。またサテライト講座においては、全国同時に、様々な資料映像を駆使し、かつての臨場感に満ちた授業を受講することを可能にし、将来、地域に関係なく在宅学習ができるのも、夢ではなくなっている。しかし、河合塾は決してそのようなハードにだけ頼つていこうというのではない。あくまで中心となるのは生身の人間であり、人材あっての技術革新である。河合塾はその人材育成も疎かにはしていない。

未知への旅立ち

2001

～∞。「汝自らを求めよ」は河合塾が創立以来掲げてきた塾訓である。これは生徒に対するとともに職員に対しても発せられた言葉であった。自己啓発・自己実現とは、つまり人をも幸福にしていくことにはかならない。河合塾ではだれかが「いたしました」ところから、その場でプロジェクトが発生する。河合塾の未来は、だから未知数であり、その河合塾の未来はあなたの未来でもある。